

櫻沢 保議員
さくらざわ たもつ

町の厳しい財政状況についての認識を問う

答 国県の助成制度を最大限活用し、まちづくりに努める (町長)



問 ①町の税収は、平成21年度23億3000万円が27年度は16億2200万円と7億800万円の減収。

この間一貫して減収傾向。減収額のトータルは約26億円。大変な減収・落ち込みであり放置できない状況。

②町の財政調整基金・貯金額は、平成21年度11億3200万円が27年度3億9000万円。大幅に貯金が減少。一方、町の地方債・借金は、平成21年度24億8700万円が27年度40億3200万円。大幅に借金が増加。
③町民は、この間、行政サービス低下、水道料金の値上げ、介護保険料・国民健康保

險税の値上げなど各種の負担が増大。

このように、町の財政状況が厳しい現状、町民に各種の負担を求めていることに対する認識・責任についてのようにお考えですか。

町長

業の撤退が大きく影響。財政調整基金は神流川沿岸地区負担金及び大雪によるビルハウスの復旧等に使用。地方債は中学の校舎改築事業等に使用。今後も厳しい財政運営が続くと認識。国県の助成制度を最大限活用し、持続可能なまちづくりに努めてまいります。

下水道事業はムダ・非効率な事業。計画を見直し予算を大幅に削減すること

問

①下水道事業は、多額の費用を要し町の財政を圧迫 (最近5年間の下水道事業費は7億4202万円。年平均1億4800万円)。

②一方、下水道の整備状況は、事業開始後10年でわずかに25%。整備完了までに今後30年間、約500世帯2490人のために、毎年、毎年約1億4800万円の事業費が必要とされています。
③町全体の人口が減少し、

空き家が目立ち、高齢の世帯が増加している状況下において、下水道に接続している家庭は、現在わずかに26世帯。今後も飛躍的な増加は期待できません。

町長

④非効率な事業計画を抜本的に見直し、下水道事業の予算を大幅に削減し、削減したお金は、子供たちの将来のため

めに重点的に使用したいと思えます。
下水道事業の見直しについては、費用対効果を考えたととき疑問が残る地区もありますが、県が事業主体であり本庄市等の構成市町の了解が得られないと計画の見直しはできません。

おじさんは怒っています。ムダ使いは許されません!



問

根本 孝代議員 中学校入学時の 支度金助成事業について

答 保護者の要望等とあわせて検討します (教育長)

問 中学校入学時の支度金助成事業の実施について、子育て支援のさらなる充実を願っています。

中学校入学時には、例えば制服や体育着等では、男子約7万5000円、女子では7万2000円、また、自転車購入では、平均6万円かかると聞いています。これだけでも約14万円かかるそうです。「少しでも支度金の助成があれば」と、ため息交じりに保護者が告白されま



美里中学校の登校風景

教育長 経済的な理由により学用品や給食費などの支払いに困っている保護者に対し、その費用の一部を援助する就学援助制度があります。議員提案の支度金助成制度も申請者の所得基準や支給要件の設定は必須であり、事業実施には課題も考えられますので、保護者の要望等とあわせて検討します。

問 町職員の育成には、いささかの疑問があります。例えば、県からは

美里町職員育成の重要性について

3人の課長職と指導主事1人の出向があります。また、出向者に女性がいまません。見方を変えると十分な町職員の育成には至らず、「県の人材を充てたのでは」との意見もあります。町民のニーズに対応できる柔軟な思考力を備えた人材の育成、また、課を統合し柔軟な組織運営にすることについて、町長はどのように考えていますか。

町長 町職員の人材不足を補つため派遣依頼したのではなく、スマートインターチェンジ事業推進県や協定市町との広域調整及び本事業の建設工事等にかか



問

田端恵美子議員 地域の再生と 地方創生について

答 町の未来を望む方向へ努力をし続ける (町長)

問 町では人口減少問題がより深刻化する中、住民の暮らしや地域、自治体のあり方も大きく変化します。持続可能な地域、自治体を構築していくのは喫緊な課題です。政府自体も地方創生を打ち出し、「まち・ひと・しごと長期ビジョン総合戦略」を策定しています。新たな美里町の目指すべき将来の方向性を示すとき、本町において、

① 安定した雇用がつけられるか。
② 新しい人の流れをつくれるか。
③ 若い世代の結婚、子育ての希望をかなえられるか。

町長 地方創生をキーワードに国を初め、ほとんどの地方公共団体では少子高齢化や人口減少問題に対応するため、地域の特性を生かした施策に取り組むと人口ビジョン総合戦略の策定を手掛けており、本町においても今年度中に策定いたします。

の活性化対策などにより、魅力ある施策を実施することで、美里に生まれ育つ子どもたちが美里町にとどまり、また町外の方が「美里町へ来たい」「住んでみたい」と思えるようなまちづくりを進めていくことが重要です。

また計画策定については、議員の皆様や住民の皆様に通中経過や素案のご報告等させていただき、ご意見を募集してまいりたいと考えております。

定める総合戦略も含め、美里町の未来を望む方向へ努力をし続けることであると考えております。



安定した雇用や人の流れでは、スマートインターチェンジの完成を契機に企業誘致等に邁進し、子育て支援や地域の

総合戦略、第5次総合振興計画のアイデアの募集を進めているところですので。多くの方向地域の実情に合ったアイデアを応募していただければと思います。

総合戦略の4つの基本目標が可能なことと、就任以来持続可能なまちづくりを目指し、各種施策を推進してまいりました。これから策

